

2011年度事業報告書

NPO法人近畿アグリハイテク

農林水産・食品バイオテクノロジー等先端技術(以下「アグリハイテク」という)等に関する情報の収集・提供、共同研究・技術開発のコーディネート等を行うことにより、近畿地域におけるアグリハイテクの研究の推進とこれによる農林水産業及び食品産業の発展を図ることを目的として、下記の事業を実施した

1. アグリハイテクに関する研究及び知的財産情報等の収集・提供

競争的資金の公募情報や、シンポジウム・講演会の案内など、関係すると思われる情報についてはその都度同報の会員ニュースとして提供した。2011年度は講演会等のお知らせ6回、公募のお知らせ等6回、その他の情報提供6回の計18回メールニュースを発行した。また、適宜、資料送付の際に活動状況を報告する会員への手紙を3回送付した。

2. 共同研究形成の促進

(1) 研究機関の技術シーズの発掘及び生産者や企業等の研究ニーズの収集

福井県を含む近畿地域の大学、公設試、企業、団体等に対し、コーディネーターによる訪問活動を行い、企業・大学訪問の後、訪問先で聞いた話を元に特許検索を行い、公開されている特許やすでに取得済みの特許の中から有効と思われるもの、期限が切れていないもの等を記録してデータベースの準備をしている(得られた情報は現在のところ、キーワード検索しか行えないので公開していない)。

※主なもの何点かを次に例として記す。

- ・微生物資材(特開2010-263817)岡部産業(株)
- ・超微霧噴射ノズル(特開2005-296874)(株)いけうち
- ・植物栽培装置(特開2010-130981)大阪府・(株)ヴェイル
- ・グラウンド用土壌(特開2010-275781)東和スポーツ施設(株)
- ・微生物等による難分解物質分解能力の評価方法と応用(特許3924752)滋賀県・渡邊 隆司
- ・白色腐朽菌を利用した針葉樹材を原料とする発酵飼料及びその製造方法(特許4590628)京都大学
- ・柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン(特許4500078)奈良県(濱崎 貞弘)
- ・鳥類ムネ肉から得られる機能性素材及びその製造方法(特開2010-63406)丸大食品(株)
- ・タンパク加工食品及びその製造法(特開2010-207165)福井県立大学(宇田川 隆)
- ・ニゴロブナの飼育方法(特開2011-24498)滋賀県立大学(杉浦 省三)
- ・抗脂血及び内臓脂肪予防食品(特開2011-55829)大阪府立大学・(有) IPE
- ・難消化性の米穀及び難消化性デンプン(特開2009-254265)大阪府立大学・九州大学・(有) IPE
- ・凝集促進剤、凝集剤及び凝集促進剤の製造方法(特開2009-125712)(株) HydroWorks ・京都大学

- ・天敵糸状菌培養物を用いたカシノナガキクイムシの防除方法(特開2006-117617)京都大学・日東電工(株)・京都府
- ・コケ稚苗の生産方法及びコケマットの生産方法並びにコケ稚苗(特許4151915)大阪産業振興機構
- ・コケの育成又は維持管理方法(特開2010-46052)(株)ヴァロール(村瀬 治比古)
- ・水中設置構造物およびこれを備える水中設置構造物群(特開2011-144589)サカイオーベックス(株)
- ・ニンニクの水耕栽培法(特開2010-63414)大阪府立大学(北宅 善昭)
- ・海藻種苗の生産方法(特許4711807)京都府
- ・ミズ由来のプロテアーゼ(特開2011-177105)大阪府立大学

訪問・面談(事務所への来訪)・問合せに対する月別対応件数は次のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	9	13	17	17	17	15	16	13	18	10	14	14	173
面談	5	2	7	2	7	11	4	5	9	8	4	3	67
問合せ	4	3	5	2	2	5	3	3	4	2	0	0	33

また、訪問・面談・問合せに関するセクション別件数は次のとおりである。

	民間 企業	大学	独法研究 機関	公設試	産学連携 機関	生産者 団体	その他	計
訪問	34	124	0	0	3	2	10	173
面談	33	11	2	8	3	1	9	67
問合せ	8	11	0	10	0	3	1	33

(2) 研究者や企業等の関係者間のマッチング支援、共同研究への参画機関の紹介及び共同研究計画の作成支援

- ①モモ、ウメの連作障害研究を行っている和歌山県農林総合技術センター果樹試験場かき・もも研究所に、対策の一つの可能性として考えられる技術を紹介した。具体的には、機械開発メーカー及びそのメーカーが共同研究を行った公設試の3者を引き合わせ、今後連携していくようにした。
- ②かき・もも研究所では和歌山県林業試験場と共同して、ある種の炭が連作障害低減に有効であることを見つけていた。一方、大阪の中小企業が開発した過熱水蒸気による炭化装置で製作した竹炭の有効利用を考えていたので、かき・もも研究所を紹介し、効果の判定を行ってもらった。
- ③石川県農業総合研究センター、畜産総合センター、林業試験場が場所横断的プロジェクトを、実用技術開発事業へ応募することを計画しておられ、ブラッシュアップの相談に見えられた。課題の中に、以前訪問した、竹パウダー製造機械メーカーを加えることで一層現実味をおびると考えられたので、両者の意向を聞き共同研究に仕立てた。
- ④立命館大学久保 幹教授のシーズをベースにした環境保全型農業技術を発展させるため、実用技術開発事業に提案を勧め課題を立ち上げた。
- ⑤「明日の農と食を考える研究会」に参加しているJAおうみ富士おうみんち傘下の生産者の圃場を用いて、昨年度に続き、SOFIX(土壌肥沃度指標可視化技術)の現場実証試験を「土壌診断に基づく環境保全型農法によるなばな生産と商品化支援」の仮題で事業化可能性調査を実施した。5名

の生産者が参加して「なばなおうみの会」を結成し、環境こだわり農法によるなばな生産と商品化の課題で6次産業化の認定を受けたので、フードテック2011の会場にブースを設け、開発商品の食味試験を実施した。現在も支援中。

(3)外部資金の取得支援

2011年12月15日(木)に、第1回産学官連携共同研究推進会議を開催した。競争的資金応募をかんがえている公設試・大学から、10課題の候補課題が提出され、検討を行った。その後、個別の相談もあり、最終的に計21課題が競争的資金制度に応募された。概要は以下の表のとおりである。

事業名	支援課題数	一次審査通過課題数
平成24年度「イノベーション創出基礎的研究推進事業」	3	
平成24年度「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」	16	5
2011年度三井物産環境基金・一般助成・研究助成	1	
計	20	5
(継続案件)	α	α

(4)知的財産のマネジメント支援

- ①「近畿地域大豆研究会」で発行している「大豆研究会ニュース」(年4回発行)に、関係する公開特許を検索し、掲載した。
- ②会員からの依頼に応じて先行特許事例の調査を行った。

(5)産学連携に関する各種支援制度や支援機関の紹介

2012年1月17日キャンパスプラザ京都において、2012年度競争的資金制度等説明会を開催した。当日は、「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」「農林水産研究委託事業の契約手続き」「イノベーション創出基礎的研究推進事業」「農林水産技術会議が所管するその他の事業紹介」の後、JSTから、A-Stepと先端計測に関する紹介をしていただいた。その後、3カ所に分かれて個別相談を行った(計7件の相談があった)。

(6)産学連携に関する地域内の体制整備と連携強化

- ①JSTイノベーションサテライト滋賀から依頼を受け、平成23年度第1回滋賀県コーディネーター交流会において、農林水産省における競争的資金制度の概要と応募のポイントについて講演を行った。
- ②長浜市にあるバイオビジネス創出研究会の依頼により、アグリビジネスの考え方について講演を行い、その後会員と懇談を行った。
- ③関西ティー・エル・オーが普及を検討している京都大学理学部教授の案件について相談を受け、何点かの問題点を指摘すると共に、普及促進の一助としてSTAFFのテクノイノベーション誌を紹介し、解説記事掲載に至った。
- ④(財)関西文化学術研究都市推進機構のコーディネーターから、アグリバイオ・精密農業関連分野で研究成果発表セミナーについて、テーマと研究者の紹介を相談された。
- ⑤和歌山県工業技術センター企画総務部から食品産業部長公募の件について相談され、会員ニュースで紹介を行った。

- ⑥立命館大学リサーチオフィス所属のコーディネーターに対する研修の一環として講師を依頼され、農林水産省の競争的資金制度の考え方等について説明を行った。
- ⑦日本政策金融公庫京都支店が企画した京丹後市の農業生産者と京都の食品関係者との懇談会にコーディネーター(CD)を参加させた。
- ⑧近畿2府4県の6次産業化サポートセンターをCDが訪問し情報交換を行った。そのうち、和歌山県のサポートセンターである(株)農業総合研究所とは、先方の希望により、後日改めて面談した。
- ⑨京都大学大学院農学研究科副研究科長(研究推進/学生担当)及び農学研究科等教育・研究協力課長の依頼を受け、農学研究科の教員対象に、農林水産省における競争的資金制度の概要と応募のポイントについて解説を行った。
- ⑩農林水産省が(株)三菱化学テクノロジーに委託して行った「農林水産・食品産業分野コーディネーター人材育成研修」(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、金沢、岡山、福岡)の運営に関してアドバイスをするとともに講師として参加し、グループ討論のコーディネートをを行った。
- ⑪近中四農研推進会議作物生産推進部会が開催した「生物工学分野におけるシーズ・ニーズのマッチングフォーラム」に参加して活動報告を行った。

3. 産学連携の促進・交流の場の提供

(1) 技術交流展示会の開催

2011年9月7日～9日にインテックス大阪で開催されたフードテック2011の「メイド・イン・キャンパスぐるめ街道」「活力ある「農・林・水・食」研究開発コーナー」のコーディネートをを行った。3日間の入場者数は17,611名であった。また、近畿アグリハイテクの紹介ブースの中に、明日の農と食を考える研究会及びJAおうみ富士おうみんち・なばなおうみの会の活動を紹介するコーナーを設置するとともに、JAおうみ富士おうみんち加工部会・なばなおうみの会の開発食品の試食アンケートを実施した。

9月9日には、「注目！機能性に富むカンキツ、茶、大麦の品種」というテーマで「フードテック2011セミナー」を開催し、70名の参加を得た。

内容 1. 「機能性に富むカンキツ新品種と加工への期待」

農研機構果樹研究所・カンキツ研究領域主任研究員 喜多正幸 氏

2. 「これまでになく機能性成分をもつ茶品種とその利用」

農研機構野菜茶業研究所茶業研究領域上席研究員 山本(前田)万里 氏

3. 「食物繊維を多く含む大麦の育種と広がる利用法」

農研機構近中四農研センター作物機能開発研究領域 上席研究員 吉岡藤治 氏

(2) 講演会の開催

総会にあわせて開催している講演会を、2011年6月2日に「地域を元気にする農と食」というテーマで開催し、98名の参加を得た。

内容 1. 「農商工連携の戦略～6次産業と食料産業クラスター～」

千葉大学大学院園芸学研究科教授 斎藤 修 氏

2. 「地産地消・有機農業・食育～今治市における実践事例から～」

今治市総合政策部企画課政策研究室長 安井 孝 氏

(3) シンポジウムの開催

1) 第54回近畿アグリハイテクシンポジウム

「水産資源の管理で豊かな食卓を」(2011年11月2日、キャンパスプラザ京都、35名の参加)
内容 1. 「京丹後 訪ねてみれば 海の幸」

①「トリガイ・イワガキの種苗生産から養殖まで」

京都府農林水産技術センター・海洋センター主任研究員 藤原正夢 氏

②「資源と環境に優しい京都府の底曳網漁業」

京都府農林水産技術センター・海洋センター主任研究員 宮嶋俊明 氏

2. 「湖魚がはね うまし米あり 近江の国」

①「湖の美味しい魚を食卓に」

滋賀県水産試験場次長 澤田宣雄 氏

②「“幻のピワマス”を創る」

滋賀県水産試験場専門員 田中秀具 氏

3. 「美し国伊勢でウナギの完全養殖」

(独)水産総合研究センター・増養殖研究所養殖技術部

ウナギ量産研究グループ長 田中秀樹 氏

2) 「大豆の需要拡大に関する講演会～大豆の魅力 再発見～」(2012年2月23日、キャンパスプラザ京都)を、近畿産大豆生産、需要拡大協議会、全国農業改良普及支援協会、近畿農政局と共同で主催し、108名の参加を得た。

内容 1. 「大豆加工食品の販売拡大を目指して～豆腐店のフィールドワークに基づいて～」

富山大学経済学部教授 坂田博美 氏

2. 「豆腐スイーツに挑戦～豆を取り巻く新たな製品開発～」

京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授 松井元子 氏

3. 「大豆を使った特産品開発の取組について～地元産「もち大豆」を活かして～」

3) その他、依頼により、下記のシンポジウム等を後援・共催した。

①平成23年度農研機構セミナー「野菜の土壌病虫害防除における環境保全的対策研究の最前線～病原菌の識別・定量検出、発病リスクの評価、防除技術について～」(後援)

2011年10月20日、キャンパスプラザ京都

②平成23年度近畿地域マッチングフォーラム「果実、野菜及び穀物に含まれる健康維持機能成分とその利用」(協賛)

2011年11月15日、奈良県文化会館

③2011年度立命館グローバル・イノベーション研究機構食料研究拠点シンポジウム「立命館が考える農業の6次産業化」(後援)

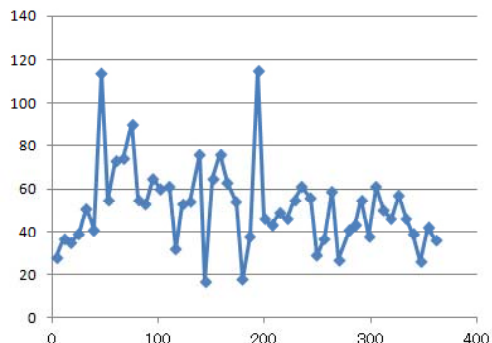
2012年3月16日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス 立命館大学ローム記念館

④公開シンポジウム「園芸作物の物理的・化学的処理による品質改善および貯蔵中の品質保持効果」(「園芸作物の品質に及ぼすストレス処理の影響と新たな貯蔵技術の確立」研究グループ主催) (共催)

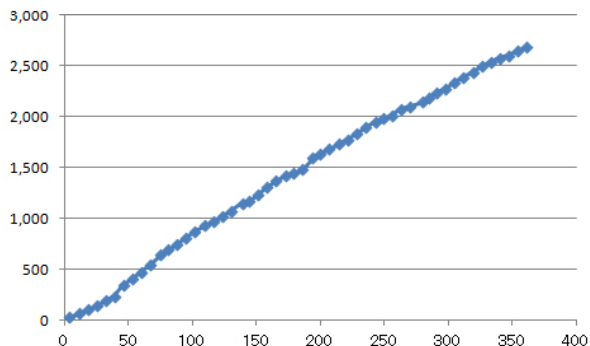
2012年3月17日、神戸大学農学部

(4) インターネット等による情報発信の充実・強化

近畿アグリハイテクのホームページは適宜更新を行い、主要な更新を行ったときには、トップページにその旨を記載するようにした。昨年度のアクセス数の推移は次のとおりである。



約1週間毎のアクセス数の推移



アクセス数の累積数の推移

4. その他の活動

(1) 近畿地域研究・普及連絡会議への参加

2011年11月14日に開催された「近畿地域研究・普及連絡会議」に出席し、意見交換を行った。

(2) 「近畿地域大豆生産、普及協議会」への参加

2012年2月23日に開催された標記の会議に出席し、情報交換を行った。

《参考》

組織運営について

1) 理事会の開催

2011年6月2日(木) 11:30～12:35キャンパスプラザ京都(2階、第2会議室)において、理事18名のうち、出席9名、書面表決8名で理事会を開催した。事務局より、総会に付議する事項(第1～第6号議案)が提案され、全て了承された。

※総会の場において、今回で理事を退任された、安部、田中両氏への感謝状贈呈を行うことが了承された。

2) 総会の開催

2011年6月2日(木) 13:00～14:00キャンパスプラザ京都(4階、第2講義室)において、正会員125名のうち、総会出席23名、委任状64名の参加で総会を開催し、提案したすべての議案が了承された。

※総会終了後、今回で理事を退任された、安部、田中両氏への感謝状贈呈が行われた。

《参考資料1》

2011年度近畿アグリハイテクの事業活動一覧

近畿アグリハイテク講演会 (10. 6. 2) (キャンパスプラザ京都)
企業・民間団体等 40、学校関係 13、行政機関(国) 14、行政機関(府県) 5、研究機関(独法) 5、研究機関(府県) 11、個人 8、事務局 2 (合計 98)

フードテック2011講演会(11. 9. 9) (インテックス大阪)
合計 70

第54回近畿アグリハイテクシンポジウム 「水産資源の管理で豊かな食卓を」(11. 11. 2) (キャンパスプラザ京都)
企業・民間団体等 20、学校関係 3、行政機関(国) 1、研究機関(独法) 1、研究機関(府県) 5、個人 3、事務局 2 (合計 35)

第1回産学官連携共同研究推進会議(11. 12. 15) (京都テルサ)
企業・民間団体等 2、学校関係 2、研究機関(独法) 1、研究機関(府県) 20、行政機関(国) 2、事務局 4 (合計 31)

平成24年度競争的資金制度説明会(12. 1. 17) (キャンパスプラザ京都)
企業・民間団体等 17、学校関係 11、行政機関(国) 4、行政機関(府県) 2、研究機関(独法) 6、研究機関(府県) 29、事務局 3 (合計 72)

凡例:

行事等の名称・内容(開催日時)(開催場所)
参加者内訳(合計)